

教育実習ノート

その五

YさんからK先生へ

五月二十二日（木）雨のち晴　みどり組

いちご摘み

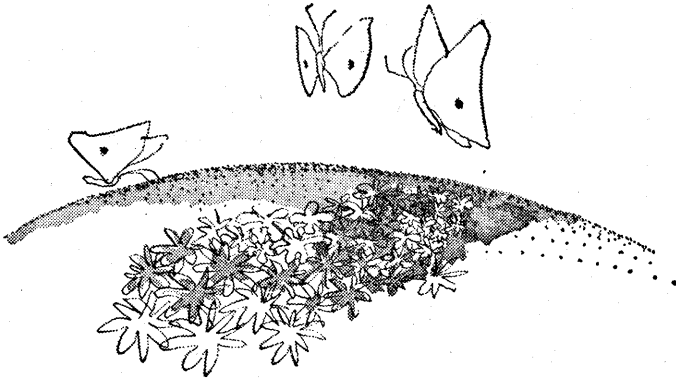
葉っぱの下に隠れてる

青空見たいと顔を出す

大きないちご　赤いちご

小さないちご　赤いちご

やさしくつまんでプチッと摘むと



赤い色が目にしみた

赤い汁が手のひら染めた

甘い香りが心にしみた

幼稚園から五分でもう苺畑……、この子ども達は自然に恵まれていて幸せである。出して行った机の上で苺の絵を描く。一人が描きだすとつられるようにクレヨンをだしてくる。どの自由画帳も苺の香りでいっぱい、お弁当の時、みんな食べる、おかわり自由の苺の味は格別——、K先生の「お腹とよく相談してね」の声も聞こえているのかな、三十個分食べたと言ってスモックを真赤にしている。

K先生からYさんへ

子どもも自然の中の一つです。苺摘みの風景は、広々とした畑の中の小さな存在ですが、ここに子どもがいて、苺の赤さが又ひきたつような気が

がします。机をだして行って……苺摘みの手を洗わないうちに、赤く匂っている手でクレヨンを持たせたかったです。一人一人、生き生きとした違った作品が生まれましたね。一つだけ大きな苺を描いている子、苺が画面一ぱいに並んでいる子。青蛙を中心に描いている子。友達ばかり描いている子。と、大人（先生）は満足なのですが……。描きたくない子もいるでしょうし、描くことによってあの苺畑の感動が薄れはしないかと思うのです。反省することはありますが——。180度、頭を切り替えるとはこの事なのでしょうね。

YさんからK先生へ

七月十日

みどり組

けんちゃんとしゅんちゃんと一緒にトンネルを掘る。「大きな山を作った方がいいよ」「固くしよう」と言われしげちゃんも、まねをして山をたたいている。「早くトンネル」と、すぐに穴を掘

りたいのに待っている。先週、トンネルの中で指と指が触れ合ったとき、とても嬉しそうだったので、私も早く掘りたいと思いながら、男の子達に合わせていた。次は川を作るといいだし、川の道筋とトンネルがほぼできあがった。しげちゃんがすぐに水を流そうとすると、じゅんちゃんが、「工事中のところがあるのでまだだよ」と言う。

トンネルでも川でもいつも早くしようと焦って不完全に終わってしまうのに、きょうはバケツを傾けたまま待っている。「いいよ」と言われると、うれしそうに流す。一杯の水では足りないの、じゅんちゃんが汲んで、次はけんちゃん、次はしげちゃんの番かな、と試してみると、さっとバケツを持って立ち上り、水道のところに走っていく。すごいぞしげちゃん！ 三人の中の自分の位置とおおうか、三人の関係が理解されていると思う。友達のことを考えるだけの余裕があり、それは

又、人を思いやる心だと思う。トンネルの中で、じゅんちゃんと手を触れ合わせていたときのしげちゃんの顔——それはそれは楽しそうだった。きょうはとにかく一日中、しげちゃんの変化に驚いていた私です。（驚く、という言い方は失礼ですね）

K先生からYさんへ

今日、一日どのように子どもとかわかったか。それでよかったか。目に見えない内面的な心の動きが見えたか。この大事なことが中心に記されていてよかったと思います。先生になったら、ここを個人の記録に移しかえると、誰が少ないか、誰とかわわっていないか、わかったかがわかります。あくまで自分の明日の保育のステップになるように記していましよう。